

空き地を利用したマーケットとITで商店街の活力アップを実現

上之町商店街振興組合

機関名	上之町商店街振興組合		
所在地	群馬県沼田市 840		
電話番号	0278-24-4545		
地域概要	(1)管内人口 4万8千人	(2)管内商店街数 6 商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1 商店街	(2)会員数 29 商店	
	(3)空店舗率 3.4 %	(4)大型店空き店舗 ー 店	
商店街の類型	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 13 年度 活性化対策事業 WEB 上のショッピングモール開設
総事業費 9,052 千円

【事業実施内容】

1. 背景

(1) 城下町として栄えた交通の要衝

沼田市は、群馬県の北部に位置し、県境の谷川連峰や三国山脈、赤城山や武尊山など名だたる名山に囲まれた盆地に広がる人口約 48,000 人の都市である。沼田市の中心市街地は、市域を南北に貫流する利根川とその支流沿いに広がっており、そこはまた日本一の河岸段丘でもある。古くは、天文元年（1532 年）に沼田氏が居城として以来、城下町として栄えた。明治以後も交通の要衝、商業の中心として発展したが、現在では関越自動車道の整備や上越新幹線などの利便性の向上など、モータリゼーションの発展もめざましい。

沼田市は区画整理事業・町中再生事業に取り組み先行取得地が増えた結果、空き地・空き店舗が増加し商店街はその活力を著しく低下するなど大打撃を受けた。

また、建物を壊すことが条件である先行取得地は、空き店舗よりも空き地を増加し、より一層暗い商店街としてイメージダウンにつながった。

そのような状況を憂えた商店街の事業者の強い希望に行政がこたえる形で指導・支援を行い、空き店舗対策事業の補助金を導入しミニショップ(プレハブ式移動可能)を建設した。また、商店街活性化資金の活用により、商店街のホームページを作成、コンピューター教室の開催ができる IT ルームを設置した。



2. 事業内容

商店街内の空き店舗(市所有)に IT (パソコン・インターネット等)を導入して商店街会員のサロンとして活用しており、現在(平成 15 年 3 月)、会員店の PR 商店街情報等の発信基地として利用されている。

また、平成 14 年には関東では初の商店街内にて、どこでもインターネットにつながるフリースポットが導入され先進的な取組としても話題を呼んでいる。

ホームページ“ミーハーウェブ”上では会員店舗のPRやイベント紹介を行うなど、積極的に商店街の情報発信を行っている。IT ルームでは、会員間の連帯と親睦を図ることに大いに役立てており、仮想空間上のホームページ、実在する施設の IT ルームというデジタルとアナログの両面で取り組んでいる。

【 効 果 】

現在、会員店の IT 教室等が継続されかなりの成果をあげている。
最近では近隣商店街の若手 IT 教室にも利用され、これらの積極的取組について県内外から視察者が増えている。



IT ルームを活用した講習会の様子



上之町商店街振興組合の IT 委員会の様子

【課題・反省点】

IT ルーム開設は、新たな分野での商店街活動の展開であった。この取組からは、当商店街においても販売が成り立ち、その結果成功したといえる店舗みられるようになった。

今後の課題として挙げられるのは、商店街としての仲間意識の醸成と、会員間の力強い団結が事業をより一層育てると考えられる。

【 教 訓 】

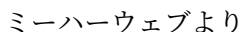
商店街活動の難しさは、『でんでんむし』の歌にあるように参加することが肝要である。
“手出せ、足だせ、顔だせ”

【 関 連 U R L 】

【 そ の 他 】

一方で、依然として空き地・空き店舗の増加による集客力の著しい低下、それによる売上減少など個店の活力を低下させる多くの問題が存在する。

町はその地域の文化と歴史が融合して創られるものである。商店もその店の歴史と伝統が創り出すものであるといえ、その集合体が商店街だといえる。つまり、活力と魅力のある個店こそ、その地域の文化と歴史を作り出していく。





上之町商店街振興組合のホームページ“ミーハー（318）ウェブ”



ミーハーウェブ上での個店紹介ページ